

第24回日本環境感染学会

訪問看護の感染予防の現状と問題点の検討

—平成19年質問紙調査結果と感染予防セミナーアンケート結果と比較して—

NPO法人HAICS研究会1、埼玉県立小児医療センター2、さいたま市立病院3、医療法人永広会島田病院4 日本訪問看護振興財団5 聖学院大学大学院人間福祉研究科6

○印田 宏子1, 立花 亜紀子2 田中 富士美3 森下幸子4 角田直枝5
郡司 篤晃6

【目的】平成19年に訪問看護師を対象とした感染予防対策に関する質問紙調査（以下質問紙調査）結果を基に、在宅ケアという限られた環境下で実践する感染予防の基礎知識を提供することを目的とした訪問看護師のための感染予防セミナーを4回開催した。また、参加者へ講義内容などに関する満足度質問用紙（以下アンケート）調査を行った結果、訪問看護における感染予防の現状と問題点を検討することができたので、報告する。【方法】質問紙調査結果をもとに、訪問看護師を対象とした、在宅ケアにおける感染予防セミナー（以下セミナー）を4回実施した。それらの内容は、感染予防の基礎的知識の普及と定着を目的に『標準予防策』と『経路別予防策と侵襲的処置に関する感染防止技術（以下経路別予防策）』とした。次に、アンケート結果と質問紙調査結果とを比較し、現状と問題点を抽出した。【結果と考察】4回のセミナー延べ414名の参加者からのアンケート結果では『標準予防策』の講義に対する満足度は約70%と低く、『経路別予防策』は約90%と高かった。質問紙調査によると『標準予防策』は過去に受講歴があると答えた者が、約半数あり、既習のものとして満足度が低かったと考えられる。ただし、実際の遵守率は低く、これをどのように普及させるかは今後の課題である。今回のセミナー形式では、標準予防策の重要性や在宅での状況に応じた対策の導入に結びつかないということも示唆された。『経路別予防策』は質問紙調査でも受講希望が高く、日々の実践の中でおこる疑問に答えることで、高い満足度に繋がったと考える。【結論】在宅ケアでは標準予防策の理解や遵守が重要であるが、訪問看護師の多くは直面している困難・問題への解決が優先かつ関心事項である。在宅ケアでの感染防止をより普及させるにはさらに効果的なセミナーの内容や教育手法を検討していく必要がある。